

令和 2 年度

事業所名： 福光園グループホームやすらぎの家

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370900441		
法人名	社会福祉法人柏寿会		
事業所名	福光園グループホームやすらぎの家		
所在地	〒021-0901 岩手県一関市真柴字楓木立43-96		
自己評価作成日	令和2年5月28日	評価結果市町村受理日	令和2年11月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・入居者様と家族様がなるべく一緒に時間を過ごせるよう、行事などを企画したり、外食ドライブなどに家族様も参加して頂いたり配慮しています。また定期通院などに関しては、ご家族様など遠方に住んでいる方、また高齢で交通手段がない方などに対しては施設の方での通院を実施しております。体調管理については早期発見・早期治療を目的とし夜間帯まで繋がらず、日中の段階での判断・行動で入居者様が日々安心して過ごせるよう努力をしています。日常においては入居者様個々にあった過ごし方をしており、個別ケアの実施が出来るものと思われまます。ケアプランに関しては半年更新としており、入居者様の希望に添ったプランとなっております。環境面では緑に囲まれ静かな場所であり、庭を眺めれば四季の花が観賞でき、外にはウッドデッキがあり、外でのお茶会なども出来ます。施設内はアットホームな環境でまさに第二の我が家とも言える佇まいとなっております、その為か入居者様も落ち着いて過ごす事が出来るのかもしれませんが。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者を第一に、一人一人に寄り添う介護を目指し、自分らしく、さりげなく、和やかにを基本に毎年度、重点目標を設定し、利用者同士の会話を上手くつなげながら、利用者の穏やかな暮らしを支援している。利用者と家族の絆・関わりにも心を配り、様々な行事への家族の参加や利用者と一緒にの外出などを呼びかけ、双方の結び付けに取り組んでいる。定期的通院の際など、遠方に在住し止むを得ない事情により通院同行が出来ない場合には、家族からの要望に沿って職員が代わって同行し、利用者家族の期待に応えている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年7月21日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

事業所名 : 福光園グループホームやすらぎの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社会福祉法人柏寿会の理念を基本とし、事業所の理念を作成し理念に基づき日々の実践に生かしています。	職員皆で開設当初に作成した理念を、玄関等共有スペースに掲示するとともに、毎月の職員会議で確認している。特に、理念にある「寄り添い」を大切にケアプランの作成や見直しを行いながら、日々の暮らしに目配り気配りを心がけ、穏やかな暮らしにつなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人・地区行事・運営推進会議・外出等の機会を設け交流を図っています。	自治会の回覧や区長等からの情報を参考にしながら、地域のイベントや会合に参加している。保育園児との年2回の触れ合い(食事会)、ボランティア(生花等、現在休止)の交流を重ね、利用者は楽しみにしているが、今年は、コロナ禍のため各種行事は延期されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外出の際など、入居者と職員の自然な関わりなどを見て頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	行政・民区の代表者については会議に参加して頂き様々な意見を頂いているが、ご家族の参加が乏しく充分とは言えません。	利用者・家族もメンバーとして、定例開催している。事業所からの報告だけに止まらず、ヒヤリハットの予防・対応などケアに関することなども話し合わせ、有意義な会議となっている。今後は、家族等の参加が多くなるよう呼びかけていきたいとしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者からはメールでの連絡、また運営推進会議の行政の方などからの助言を頂いている。	主に運営推進会議の場を通じて指導や助言、情報交換等を行っており、介護相談員の訪問も随時行なわれている。介護保険関係の提出書類などは、直接、担当職員に持参提出するよう心がけている。普段は、電話等で必要な連絡を取合うことの出来る関係となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間帯に関しては夜勤一名体制であることや防犯の理由により施錠を行っている。日中においては自由に入出入り出来るようになっている。毎年身体拘束廃止検討委員会の委員より年6回の内部研修を行っている。	事業所独自の身体拘束廃止方針を定め、「拘束排除マニュアル」を作成している。身体拘束廃止適正化委員会を設置し、3か月ごとに開催している。施錠は、安全上、夜間のみとしている。言葉による拘束の廃止には、特に心がけており、その場で相互に注意しあっている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 福光園グループホームやすらぎの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議において、内部研修会を行い、職員には周知徹底してもらっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じ資料を活用し学ぶ機会を持っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は全てにおいて、契約書・重要事項説明書を説明しています。説明の際の質問・不明な点・不安などあれば相談をいつでも受け付け対応しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	主に面会などに気軽に意見してもらう事や以前の家族のアンケート調査結果を元に改善点などを明確にし、運営に反映させている。また普段よりご家族様との連絡を密にしている事で意見や要望などを聞き入れ対応している。	普段の面会時やイベント開催時に職員誰にでもと話せる雰囲気作りを心がけている。家族アンケートも適宜実施し、意見や要望を伺って関係作りも工夫している。職員同行の通院の要望があり、一昨年から対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の面接評価の場を設け意見や提案などももらうようにしている。また個々の目標なども聞き反映させている。必要に応じて職員の意見を聞く機会を設けている。	毎月の職員会議だけではなく、職員面談(年2回)を行い職員の生の声を聞く機会としている。「利用者に寄り添う時間を増やしたい」など、利用者への介護の在り方に関する意見が多く出され、報告・連絡・相談を機能させながら、事業所の課題として取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に上層部への相談・報告を意識し労働環境の整備に努めています。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 福光園グループホームやすらぎの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の会議での内部研修を行いスキルアップに繋げる事や外部の研修にも個々が受けてみたい研修などに参加して頂きケアの質の向上を目指していく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内部研修会の参加により同職種の交流の機会を作り意識向上を図っています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアプラン作成時などにおいてご本人の思いを聞き取りご本人の声としてプランに載せています。傾聴を行いながらご本人が安心できるような対応に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様には入所申し込み時に要望等を時間を掛け聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を見極め、実際に必要としているサービスを含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を念頭においた介護の提供により共同生活、フロアの掃除や食事作りなど一緒に行い共に生活している関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と入居者様が一緒に過ごす時間を意識し行事を企画している。(お花見、紅葉ドライブ、納涼会、食事会など)またドライブに家族様と一緒に誘い買物などに出掛けご本人とご家族様の絆を大切にしています。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 福光園グループホームやすらぎの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご自宅・美容院・飲食店・スーパーへの外出支援を行っている。	家族のほか、かつての仕事仲間などが時々訪れ、楽しい時間を過ごしている。訪問理容や買物を通じた新たな馴染みの関係も出来つつある。職員は利用者との日頃の会話や何気ない一言などから、馴染の人、場所の把握に努め、職員間で共有しながら支援していきたいとしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格を良く理解し他者との関係構築が円滑に出来るよう中継ぎ・仲介と必要に応じた支援を行っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後においては、ご本人様に会いに面会に行くなどしたり、ご家族様には退去後の様子を聞き必要に応じ相談や支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の希望や意向に添った介護の提供、ケアプランに於いてご本人の声として反映させています。	会話等が思うようにならない利用者の場合も、普段の行動や態度、話し掛けた際の反応や表情の変化などから、思いや希望を推し量っている。基本的には、本人本位で対応し、その人なりの暮らしかたに寄り添うこととしている。センター方式は採用していない。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々にフェイスシートを職員で作成して頂き、過去の生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の一日の過ごし方を尊重し、職員間で情報共有を図り、その入居者様にとって、最も良い過ごし方に努めています。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 福光園グループホームやすらぎの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議において検討会を開催し、計画書2と介護支援経過を用い現状の課題で良いのか、サービス内容などの検討を踏まえ、プランの作成をしています。	担当制を採用し、毎月のモニタリングは職員会議で担当職員がまとめた資料を基に行い、利用者の情報や生活課題を把握、整理した上で、計画作成担当者が、誤嚥対策等の家族から寄せられた要望も盛り込み、6ヵ月毎にプランの見直しを行っている。職員は、利用者の全員について、気づいたことを積極的に発言している。家族には丁寧に説明し了承を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一か月に一度居宅介護支援経過に各担当者が一か月のケースより必要事項を抜粋し、介護計画の見直し時に職員間での情報共有をし検討しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院等は基本ご家族様が対応しますが、ご家族様が遠方にいる方、ご高齢により交通手段などが難しい方などに対しては施設側での対応としています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアなどの活用、世代間交流なども活用し暮らしを楽しむ事が出来るよう生きがい作りに取り組んでいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はご本人様またはご家族様の希望に添ったかかりつけ医とし、情報提供書の作成をして連携を図っています。	殆どの利用者は、入居前のかかりつけ医を受診している。通院は、バイタル等を記載した情報提供書を持参して家族が付き添うことを基本にしているが、事情によっては職員が同行するなど、柔軟に対応している。日常の健康管理は、職員がかかりつけ医の指導助言を得ながら行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活に於いて職員間での気づきに基づく情報共有にて異常の早期発見・早期対応に努めています。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 福光園グループホームやすらぎの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入・退院はいずれも文書に報提供書・口頭による共有を図り連携に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の契約段階から今後の在り方を共有し同法人の特養への入所の申し込みも勧めています。重度化した際には、出来る限りの身体介護を提供しています。	看取りは、現在、対応していない。利用者家族には、入居時に重度化した場合の対応を丁寧に説明し、了承を得ている。事業所では、利用者家族やかかりつけ医と連携を図りながら、事業所が出来るところまでの介護を行うこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習会・職員会議での研修などを実施し、急変時などの確に行動出来る様訓練を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練の実施と災害対策マニュアルを掲示し近隣住民の方にも参加して頂いている。	避難訓練は年4回の実施を通例としているが、コロナ禍により春季は延期になった。訓練へは、近隣の方々も参加協力いただき、併せて発災時の駆けつけ、見守りへの参加もお願いしている。職員はAED講習を受講済みである。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けに関しては、入居者様に不快な気分を与えないよう対応しています。	利用者への声掛けは「さんづけ」とし、居室に入る際には必ず了承を得るなど、プライバシーに配慮している。羞恥心に配慮し、排泄誘導の際には耳元で小声でささやくようにしている。職員は、人生の先輩である利用者から、暮らしの知識や習慣等を教えてもらうなど、人生の先輩として敬意を表しながら、介護に当たっている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 福光園グループホームやすらぎの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己選択・決定を念頭におき、入居者様ご本人の思いや希望を引き出せるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムを把握し、ご本人のペースにあった生活をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の人格を尊重し、その人らしい必要な支援を行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立の説明を食前に行い「見て、知って食べる味」の提供をしています。調理に関する一連の流れとして入居者様が出来る範囲で手伝っています。R2・5・21～チルド食へ変更。	今年度から、ご飯や味噌汁を除きチルド食を採用して調理に要する時間を減らし、職員と利用者が寄り添う時間に充てている。利用者は、配膳や下膳、茶碗拭きやテーブル拭きなど、出来ことのお手伝いをしながら、職員と一緒に楽しい食事としている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	年2回の法人栄養士による指導を受け、栄養のバランスに配慮し、水分は一日1500cc～1800ccを目標に職員共通意識の上で支援させて頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立・一部介助・全介助に応じて、誤嚥性肺炎予防・歯周病予防に努めています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンをチェック表に記入しデータ化する事により適切な排泄誘導に繋げる事ができている。	殆どの利用者は何らかの介護用品を着けているが、日中は職員の優しい声がけを得て、トイレでの排泄に取り組んでいる。その結果、現状で機能の低下が見られる利用者はいない。職員は排泄の自立は生活の自立の基本であることを認識している。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 福光園グループホームやすらぎの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	麦ごはん・バナナ・ヨーグルト(ヤクルト)・飲むヨーグルト・アーモンド効果などの摂取・活動量・水分摂取量などにより自然排便を促す対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間は選択出来ないが、入りたいという希望があれば、入浴予定者を変更するなどし調整している。清潔保持の為入浴しない日には陰部洗浄、下着交換、靴下の交換を行っています。	それぞれに週2回、午後を基本に入浴している。入浴を嫌がる方には無理強いせず、代わりに清拭や足浴等を行い改めて案内している。希望に応じて入浴剤や菖蒲湯なども取り入れ、一人でのんびりする時間としたり、職員との会話を楽しむなど、思い思いの入浴時間を過ごしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調に応じたり、目視による状態観察を行い、無理のない日課を支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報を基に説明を行い、配薬の際は本人に分かる言葉で説明を行っています。また臨時薬については経過観察を必須として、結果を次回受診時に繋げています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者個々に役割を持って頂く事や楽しみを持ち生活して頂く事により日常生活に張りがあり充実した生活を送る事ができていると思います。また職員と一緒に会話の中に入り雑談など話す機会を設けています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年2回程度の家族様との合同ドライブ・ご家族様との外食会・日用品の買物・地区行事参加等、可能な範囲での支援を行っています。	日頃は、山の方に散歩に出掛けたり、お花見、紅葉狩り等の季節のドライブに出かけ、気分転換、ストレス解消を図っていた。今年は、コロナ対策で思うように外出することが出来ず、事業所前のウッドデッキで日光浴や外気浴をしたり、時には、車で近場を一周して気分転換を図っている。家族の協力を得て、通院同行の際に外食をしてくる利用者もおり、これからも、外出への家族協力を進めたいとしている。	コロナ禍のため思うように外出ができない中、天候の悪い日、高暑のときなどは山や海の自然を写した、テレビやプロジェクターなどを活用し、爽やかな気分を感じ取る工夫も一考ではないでしょうか。

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 福光園グループホームやすらぎの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在2名の方が自己管理しており、買い物するときなど使ったりしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員がご家族様に電話を掛けてから、ご本人に代わって頂き会話をする支援を行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木造で既存の建物を活用しており、入居者様にとっては馴染み深いものになっていると思われます。広さ的にも安心して過ごせる環境なのだと思います。	利用者それぞれに自分の家であることを実感し、四季を意識できるよう配慮し、季節の花を活けることを心がけているとしている。利用者の語らいの場でもあるリビングは、清掃と整理整頓が徹底され、時折、笑い声が聞こえ、職員と思い思いの話をしながらゆったりと過ごす居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様が落ち着いて過ごせる場所づくりとして、リビング・廊下にソファを設置しています。誰が使用してもよいようにゆっくりと過ごせる環境を設けています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時などに以前に使われていた愛用の家具等の持ち込み促しています。持ち込みをされている方がおり、居心地よく過ごせていると思います。	各室には、ベッドやクローゼット、空調等が備え付けられ、利用者は、持ち込んだ馴染みのテーブルや椅子、テレビ、仏壇を思い思いの場所に置き、入口には木製の表札が飾られ、清掃や整理整頓がなされた居室となっていると、管理者から説明を得た。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	なるべく自立で歩けるように職員側も配慮し段差のある場所を教えるなどし事故を未然に防ぐ支援をしています。		